



君が望むならば

R-18

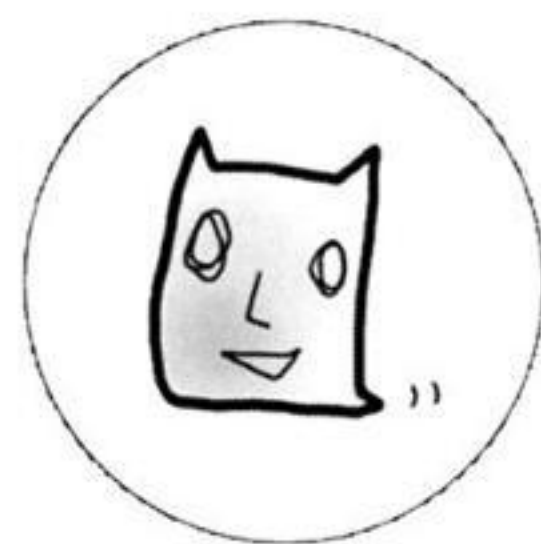
2020/08 gpagR18
MAIRUMA FANBOOK #01
Gaap * Agares



君が望むのなら

R-18

※この同人誌はpixivに投稿した小説の続きです。
小説をお読みになる方はご検索ください。



イチカ
pixiv ID = 1974026



小説①
【アイマスクに隠れた素顔】



小説②
【ふたりのつきあい】

1_ 君が望むなら

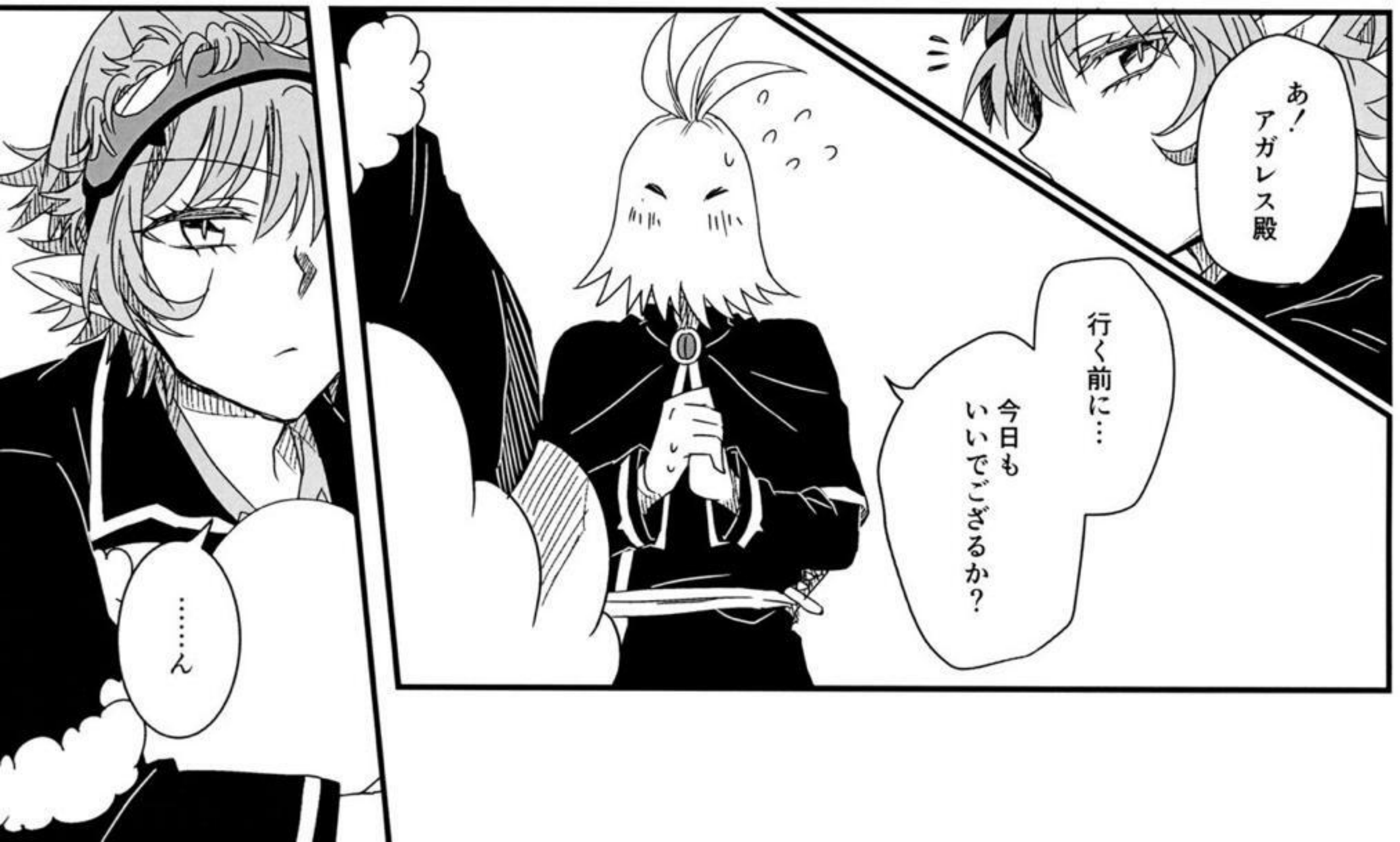
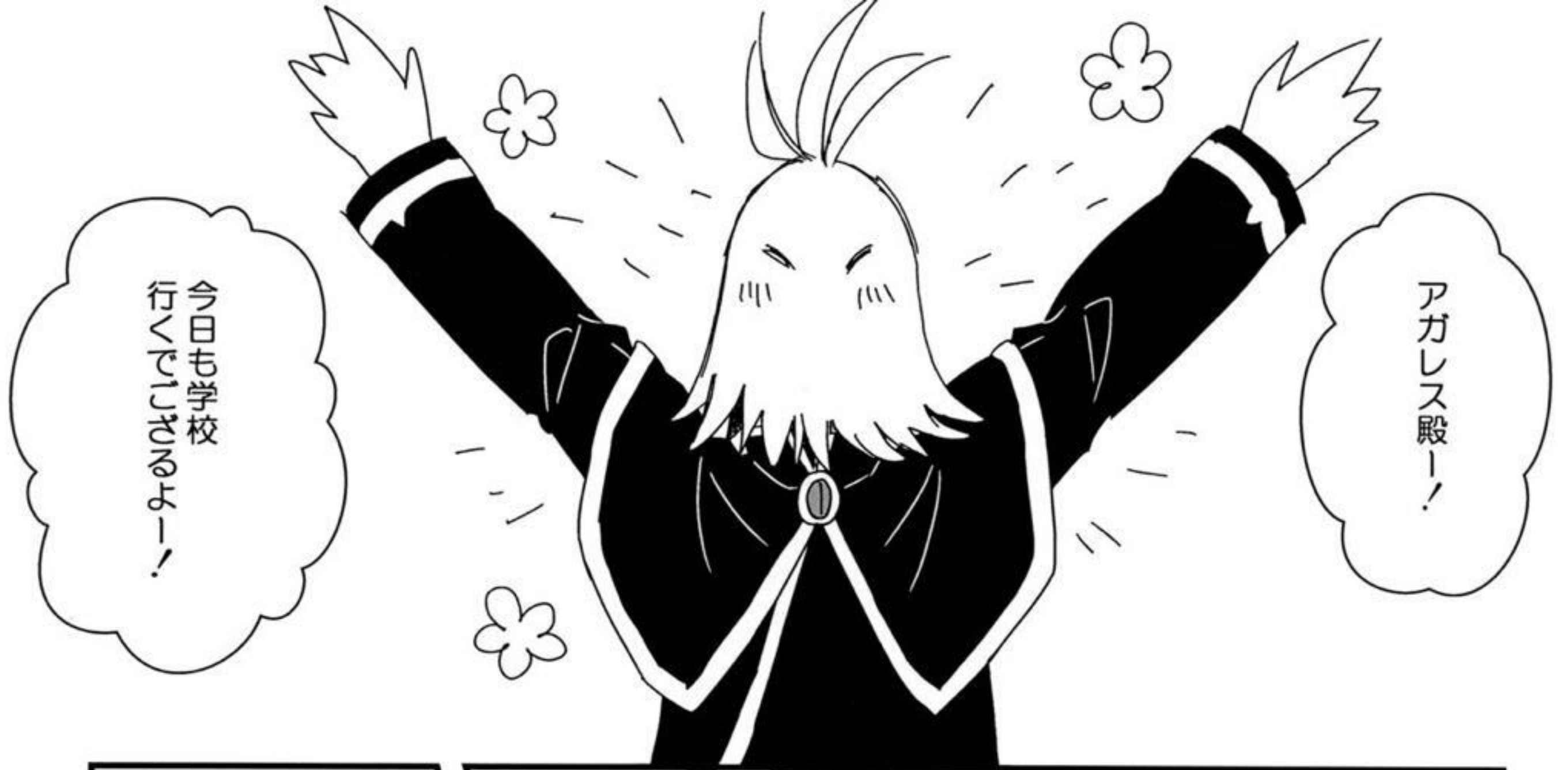
ゲスト

2_ 課外授業 / ゆの

3_ 特別な想い / 榴乃

4_ 皆が望むなら / Katary

5_ 君が望むなら(後)



あれからガープは
キスをねだって
くるようになった

それも毎日
飽きもせず

断るのが面倒だし
一度許しておいて
拒否る理由も
ないため

ガープが
望む度に
応じた

だけど最近
は行きだけじゃなく
帰りも要求する
ようになってきて

ホント……

俺のこと
好きなんだな
コイツ



はま!?

そんなこと
するわけないだろ!!

どっ
どうして!?

キスもたくさん
したでござるし
そろそろ
良いでござろう!?

そろそろ
じゃねえよッ

何考えてんだ
お前は!

なにして…

拙者たちは
付き合っているし
好き合う者同士なら
したいと思うでござろう



とにかく
そんなこと
絶対にしない！

九七や、

明日も修行なん
だからお前も
早く帰って寝ろよ



じゃあな

おたん！



好き合うってな…

俺はお前にキスしても
いいとは言ったけど
好きだなんて
言っていないだろ！

勘違いするな！！

そんな…

おせいぐ
おせいぐ!!!



イラ イラ イラ
イラ イラ イラ

まただ……
またモヤモヤして
ねむれない

きっと
昨日の事のせい
なんだろうけど
だけど
まちがったことは
言っていないはずだ!
大体 今朝だって
あいつは何事もなく
むかえに来たんだし
別に気にすること
ないってのに……ッ



そっだよ
今日も
いつも通り
一緒に
登校したんだ

けど……
一言も
喋らなかつたし

キスも
しなかつたな……

え？

サバト？

そう
放課後に！

特訓も休み
だし行こうよ
イルマくん

またサバトか
元気がやつ...

でも僕の方は
休みじゃ
ないから...

うん
うん
イルマね

あゝそっか
イルマくんの
講師はバチコさん
だもんね

ジャジーも
フルフル軍曹に
拉致られてから
行方不明だしなあ

あ。
そうだ！
ガープを誘おう

わよ...
バーカ
あいつは俺の
ことが好きなん
だから行くわけ

『好きだなんて
言っていないだろ！』





いいの？
ダメなの？

もちろん
良いでござる！

どっとうしたで
ござるか!?
何か用事でも!?



アガレス殿から
誘われるなんて
初めてでござる……ッ

感動
夢は叶えぬが



こんな事
滅多にないで
ござるからな!

それに
アガレス殿とリードなら
アガレス殿でござる

僕の方が先
だったじゃん!
おかしいでしょ

というわけで
リード
悪いでござるな

……

ひどくない!?

ガタッ

それで
どこに行く
でござる？

いかに
いかに

とりあえず
一旦家に
帰ろう…かな
帰りに着くまでに
考えないと

どうしよう…

承知した
でござる！

何にせよ
拙者は喜んで
アガレス殿に
ついていくでござるわ

え？

今からでござるよ

何か用がある
のでござるう？

いかにいかに
いかにいかに



そういえば
なんも考えて
なかったな

昨日は…
悪かった

え？



昨日
言い過ぎた

かなって…

あ！
ああ…

…あれは

アガレス殿が
謝ること
ないでござる



アガレス殿が
言ってた通り

拙者が両思いだと
勘違いしていた
のでござる

アガレス殿の厚意で
キスをさせて
もらっていたのに

更に要求して
拙者が
悪かったでござる

だけど
もうあんな事は
言わないでござる

誓うでござる！

それって…

もう
キスしない
ってこと？



それさえも
できなくなるのは
さすがに耐えられ
ないでござる

よかった



もしかして
キスもイヤで
ござったか!?

いや
キスは別に…

いっしょ
し



えん?
キスはする
でござるよ?

え?



…両想いで
なかったのは
シヨックでござったが

アガレス殿と
キスが
できるなんて

よくよく考えたら
それだけで充分すぎる
事でござった

だから
欲張らないことに
したんでござる

アガレス殿が
嫌がることは
絶対にしない

拙者は
アガレス殿が
好きでござるから

拙者は
ここで待って
いるでござるな

着いたでござる！

それで

その…

あとで
今日のキスにしても
いいでござるか？

今朝
してなかった
でござるから…

やっぱり
いいわ

……アガレス殿？



今なら……

お前が言ってた

アレ……



し……も……ら……ん……







ほ…

本当に
いいのでござるか？

…早くしろよ

眠くなるぞ！



…あのさ





胸なんて無いのに

そんなとこ触って何が楽しいんだか

まみ

まみ

まみ

まみ

まみ



え?

クリッ



ん!?
ちよっ

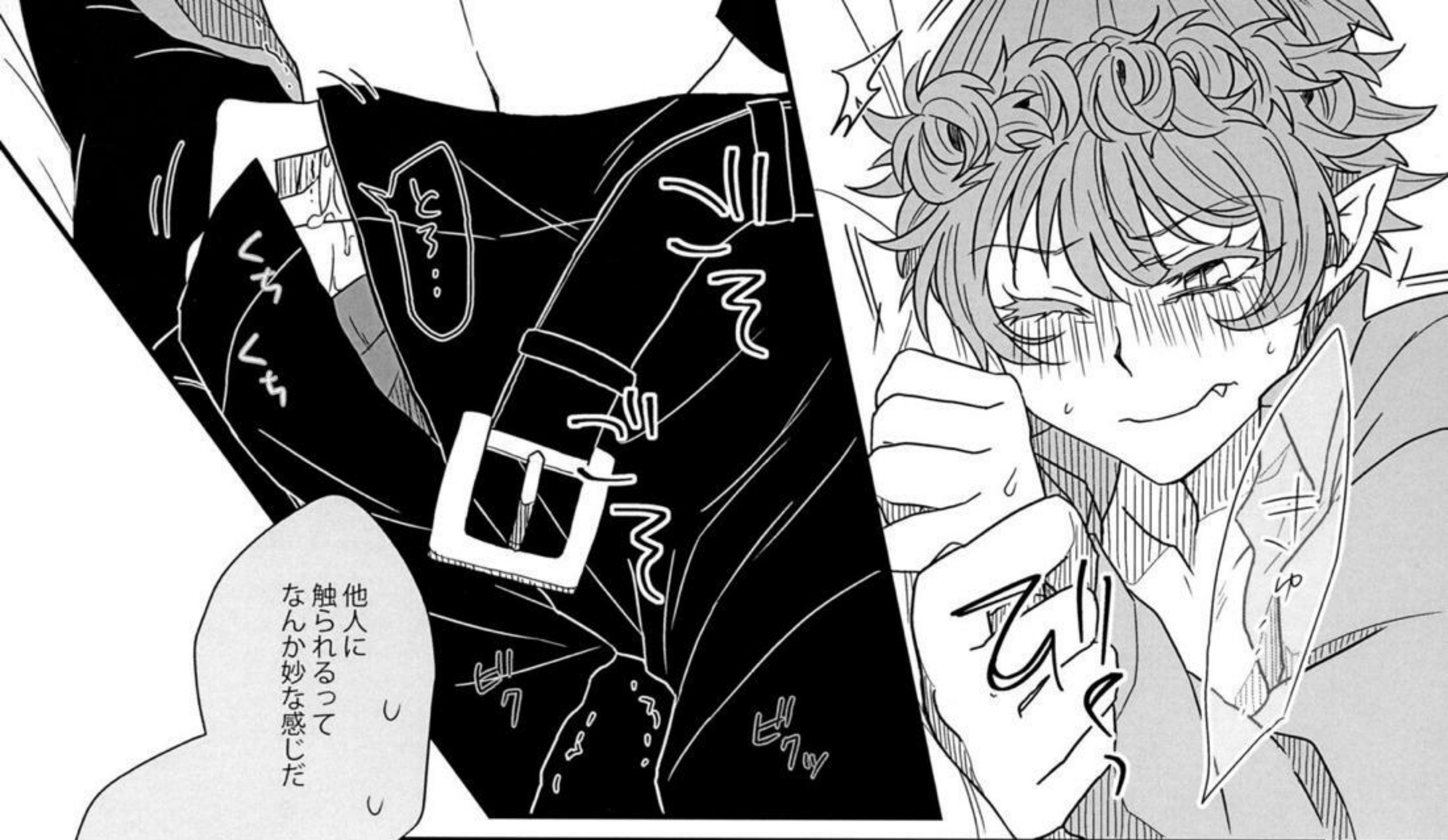
うん!?
今始めたばかりなのにこいつ勃って…

アガレス殿
下も
触るでござるよ

ちよっ
まっ…

カチヤ
カチヤ

カチヤ
カチヤ



他人に
触られるって
なんか妙な感じだ

自分でも
そんなにしない
から余計に……



飽きたのか？

とりあえず
助かった



ぬっ
ぬっ
ぬっ

ぬっ

しゅん

ぬっ
ぬっ

どうして
こんなに濡れて...

うっ

ん...っ

え!?

なんで

んっ

ヤバイ

こんな
激しくしたこと
ないから

もっ...

ツ...ガ



ガーブ!

俺
もう……

ガッ

今眠ったら
きつと気持ちいい
でござろうな



だけど
もう少し続ければ


もっと
気持ちよくて

アガレス殿が
今まで経験
したことない

最高の眠りに
就けるでござるよ



最高の眠り?

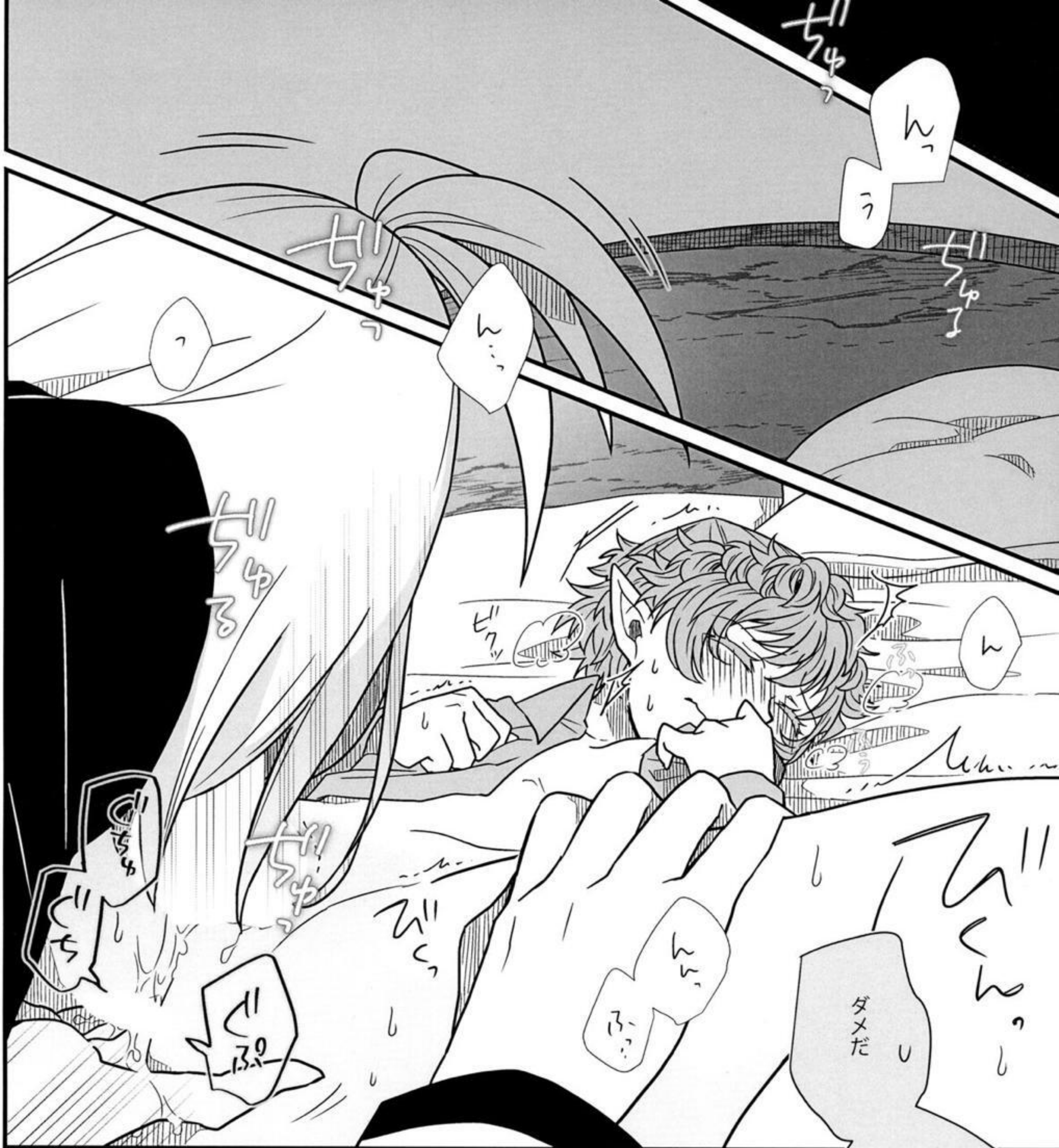


大丈夫

アガレス殿は
いつも通り
拙者に任せれば…

だから

続き
してもいいで
ござるよね？







ガ
ガープ……

おまえ……





あッ

アッ!!!

あッ

だめっ
これ

おまじ
おまじ

ちがう...ッ
全然

ま...ッ

アッ

ア

あ

ま...ッ

ガープッ

「っは、あ……」

絶えず漏れる荒い吐息、止まらない手、湧き上がる羞恥心、そして逃れられない視線。

「ちよっ……もっ」

「もう少し、もう少しだけ、頼むでござる！」

既に三回目になるこのやり取りに、アガレスは奥歯を噛みしめた。

そもその始まりは、数時間前。学校内で帰宅の準備を行っていた時アガレスが呟いた、

「眠い。とっとと帰って抜いて寝よ」

この言葉からだった。

「アガレス殿」

「ん。なんだよ……」

「抜くって何をでござるか？」

気怠そうに欠伸混じりで返事をするアガレスに、ガープが首を傾げて不思議そうにこちらを見ている。

「はあ？ 抜くついたら、アレしかねえだろ。ほら今日あの授業あったら？」

「授業？」

「ゆーわくがく」

眠そうな声でアガレスが話した女生徒だけに存在するその授業。実際どういった授業を行うのかよく知らないが、その授業後に戻ってきたクラスメイトは、どこか妖艶な雰囲気を感じ、ランクの低い自分達は僅かながらもその雰囲気当てられる事がある。

何ともやるせなさを感じつつも、そういう日はとっとと帰って処理して寝る、これに限るのだ。そうして翌日、再び素知らぬ顔で学校の門を潜る。そういうルーティンでアガレスは過ごしてきた。だから勿論、目の前で首を傾げて不思議そうにこちらを見ている彼もそうだと思う。

「誘惑学でアガレス殿が何を抜くんでござるか？」

……のだが、こちらを見つめる瞳はいつもと寸分変わらず真っ直ぐでアガレスを揶揄うという様な色など秘めていない。それどころか、あの睡眠大好きなアガレス殿が、今日はその前になにかを行うでござる

か？ という純粹な疑問と、興味が透けて見えている。極め付けには、髪の毛とか？ なんて突拍子もない事を言い出す始末で。

「何って、ナニだけど……」

「ナニ？」

会話を重ねるごとに自分の方が恥ずかしくなり、小声で話し出したアガレスと、意味が分からないガープ。ずっと平行線の会話に、アガレスはお手上げ状態だった。

「あー！ もういいだろ！ お前には分かんねえよ！」

正直こんな無謀な話を繰り返すより、早く帰ってやる事やって寝たい。これに尽きる。

しかし、アガレスの思うよりもガープの探究心は強かったらしい。

「そんなのアガレス殿だけズルイでござる！ 拙者もナニをぬっ……」

「あー!!分かった！ 分かったから！ 大きな声出すなよ！ 煩い」

「申し訳ないでござる」

ここが教室だという事も忘れ、しがみ付きながらとんでもない声を上げようとする目の前の悪魔は、疑問が解けるまで永遠に掘り返されるだろう。

それに肩を落として、しょげてしまっている姿を置き去りに家に帰っても後味の悪いだけだ。

「はあ……。やり方だけだからな」

「アガレス殿っ!!」

悪魔なのに背景に御光を背負ったかの様な笑みを浮かべて、自分に抱きつくご機嫌なガープの前で、アガレスは盛大にため息を吐いた。

そして今に至る。

そのまま一緒に下校し、自分の部屋に招き入れて、説明も一通り終えた所ではご勝手に。というアガレスの願いも虚しくガープは、

「いよいよ実戦でござるな！」

なんてニコニコと変わらない笑みで意気込んで話すものだから、あれよあれよと実践してしまった。これが失敗だった。

『なる程！ ここを擦るのでござるな』

『あっ！ 大きくなった！ 成長するんでござるか！』

『上を向いてきていでござるよ！ アガレス殿！』

「……」

煩い。

「ガープが知りたいと言うから教えたのだ。しかもアガレスにとって、今後二度と同じ事が起きぬように割と事細かく。普通ここまで教えれば後は察して帰ってくれるであろう所まで！」

それをガープときたら、事細かに実況し、復習するかの様に繰り返す言葉にするのである。勿論全てアガレスで。

自分のことは自分が一番よく知っているのに、その状況を他人に改めて言葉にされるのはいいものではない。特に性の事情に関しては。

やっぱりあの時教室で、白い目の集中攻撃にあっても拒否すべきであった。と今更後悔しても後の祭りである。

「っ……あッ、ちよっ」

「拙者もやってみたいでござるー！」

「はあっ！？ ひあっ！」

そうこうアガレスが思考を巡らせている内に、遂にガープが行動に移してきた。

ガープの独特な手が自身を弄っているアガレスの手に重なり、自分の意思でない動きで擦り上げる。

その手つきは辿々しいものであったけれど、逆にアガレスの敏感な部分を掠め、抵抗する力が抜けてゆく。

「息が上がったでござる。ここがアガレス殿が言う気持ちいい所でござるか？」

「まっ……ンンッ！」

待て。

「ムム？ では、こちらでござるか？」

「ふ、っ、うう……」

そうじゃない。

「やはり拙者では未熟なのでござろうか？ それに顔も赤いでござる。具合でも悪いんでござるか？」

「ひっ、ん……あッ」

誰のせいだ！

言いたい事は山程あるのに、言葉は吐息となっていく。これ見よがしに睨んでみても、ガープといえどどこ吹く風状態で。真っ直ぐな瞳がアガレスを更に追い立ててゆく。

同級生に自慰を見られていたという状況、事細かな解説、仕舞いには、自分ではない者からの絶えず与えられる刺激。

全てが今のアガレスには興奮材料となって、腰の辺りからゾクゾクと快感が押し寄せてくる。恨み言の一つでも言いたいのには、そんなのどうでも良くなる程に。

「アガレス殿ッ！ ……どんだんヌルヌルになってきてるでござる！ ……これはどういう事でござるか？」

「もうっ……や、めろ……ッ」

「嫌でござる。もつと見たいでござる！」

初めて見る光景に、別の意味で興奮状態のガープはアガレスのソコに釘付け状態で、アガレスには彼を押し返す事すらままならない。

快楽で朦朧とする意識の中、目に映るガープの顔は真剣でその瞳を輝かせている。

一発殴ってやりたい。なんて思いつつ、先程からフワフワと目の前で揺れている全身を被う毛のような体に手を伸ばした。

「……アガレス殿？」

「え？ ……な、あ……っや、だめ！ ……みる、なああッ……!!」

「え……」

不意に二人の視線が交わった瞬間、アガレスは遂に限界を迎えた。欲の解放と同時に襲う倦怠感と羞恥心に苛まれながら、アガレスは足を抱えて丸くなる。

「あ、アガレス……どの、の」

「るせえ。ちよつと黙ってる」

やってしまった。クラスメイトの目の前で。よりもよってガープの顔を見ながらなんて……。

アガレスを怒涛の後悔が襲う。顔を上げたくない。できればこのまま帰って欲しい。だって自分がどんな顔をしているのか分からない。

今アガレスを占めているのは、羞恥心ではなかった。

あんな盛大に痴態を見せてしまったのに、一人で自慰をしていた時とは違う不思議と心地の良い気分。

つぶらな瞳と無邪気な顔に少しだけ心が揺れたのである。女子の前では素知らぬ顔ができるのに、これからどんな顔してガープに会えばいいのかわからない。

こんな気持ちを抱えるのは初めてで、なんだかよくない……気がする。

「あがれずどのお……」

そんなよく分からない感情に戸惑うアガレスを、気の抜けた声が呼ぶ。

「ああ！ ……なんだよ今度はっ！」

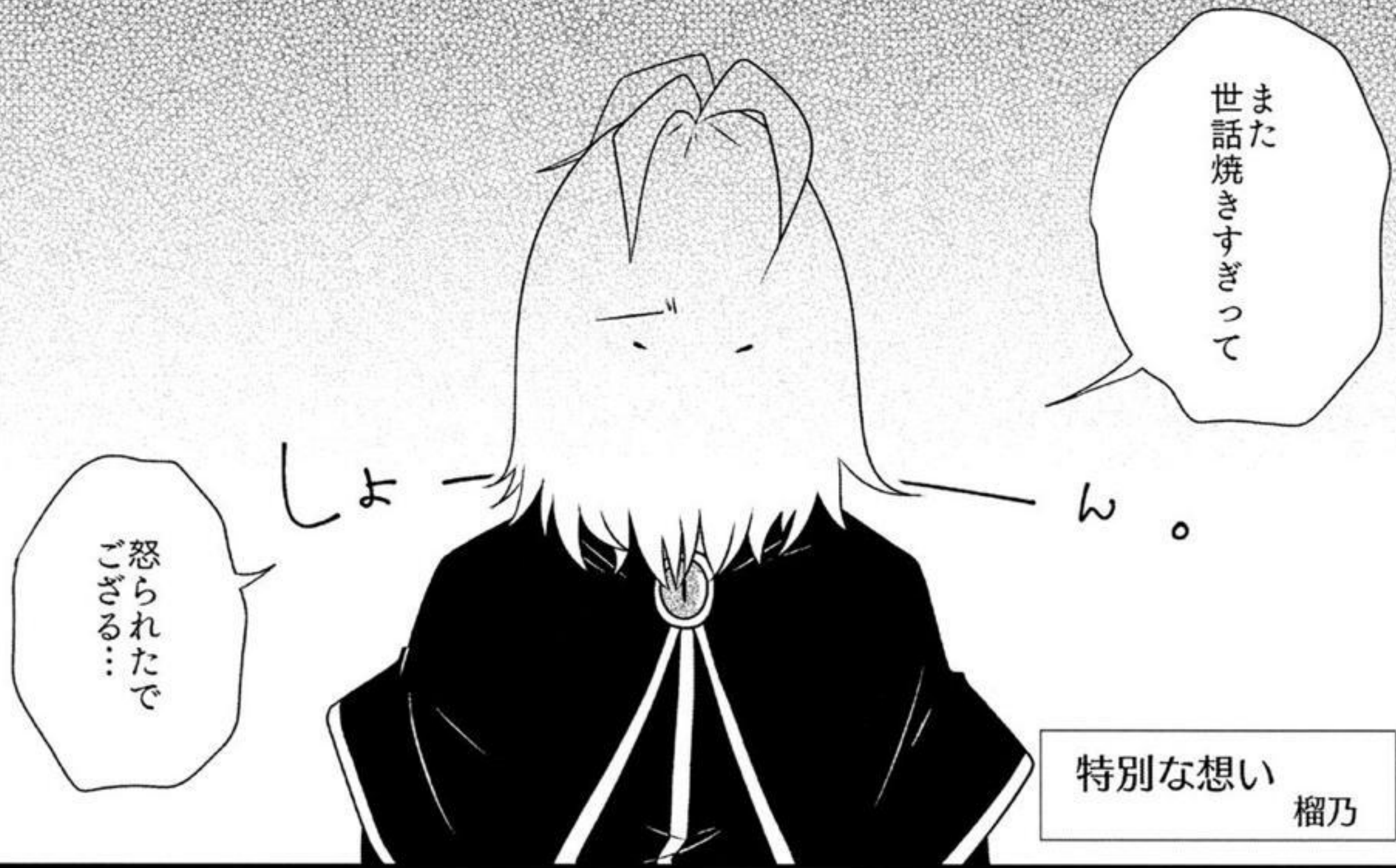
半ばヤケクソになり顔を上げれば、床に座り込んで何やら落ち着きのない様子のガープがこちらをチラチラと伺っている。

「その……アソコがムズムズするでござる」

どうしたら……と続けようとしたガープの声は、眼前に飛び込んできた枕に飲み込まれた。

「……ッ！ ……知るかっ！」

これは二人の仲が進展する、少し前の話。



また世話焼きすぎって

しよーん。

怒られたでござる...

特別な想い
榴乃



お仲間100人出来るでござるかね...

...

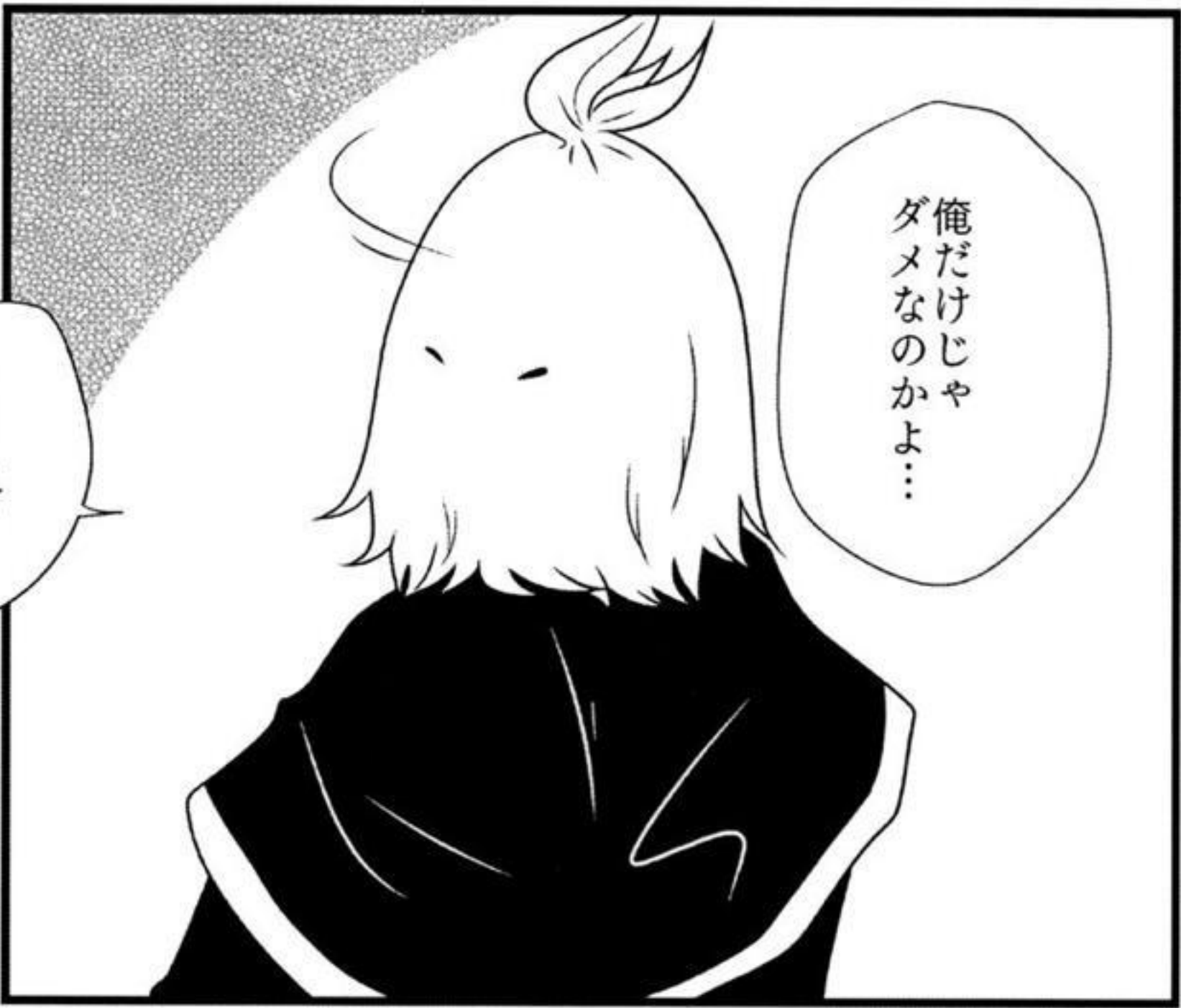
あんなガーブ珍しいな...

じゅめ...



俺いま
声に出て…

……え？



俺だけじゃ
ダメなのかよ…



いや…
今のは…

感激っ!!

アガレス殿は
拙者のお仲間にな
っててくれていたの
でござるか?!



俺が仲間じゃ
困るのかよ…

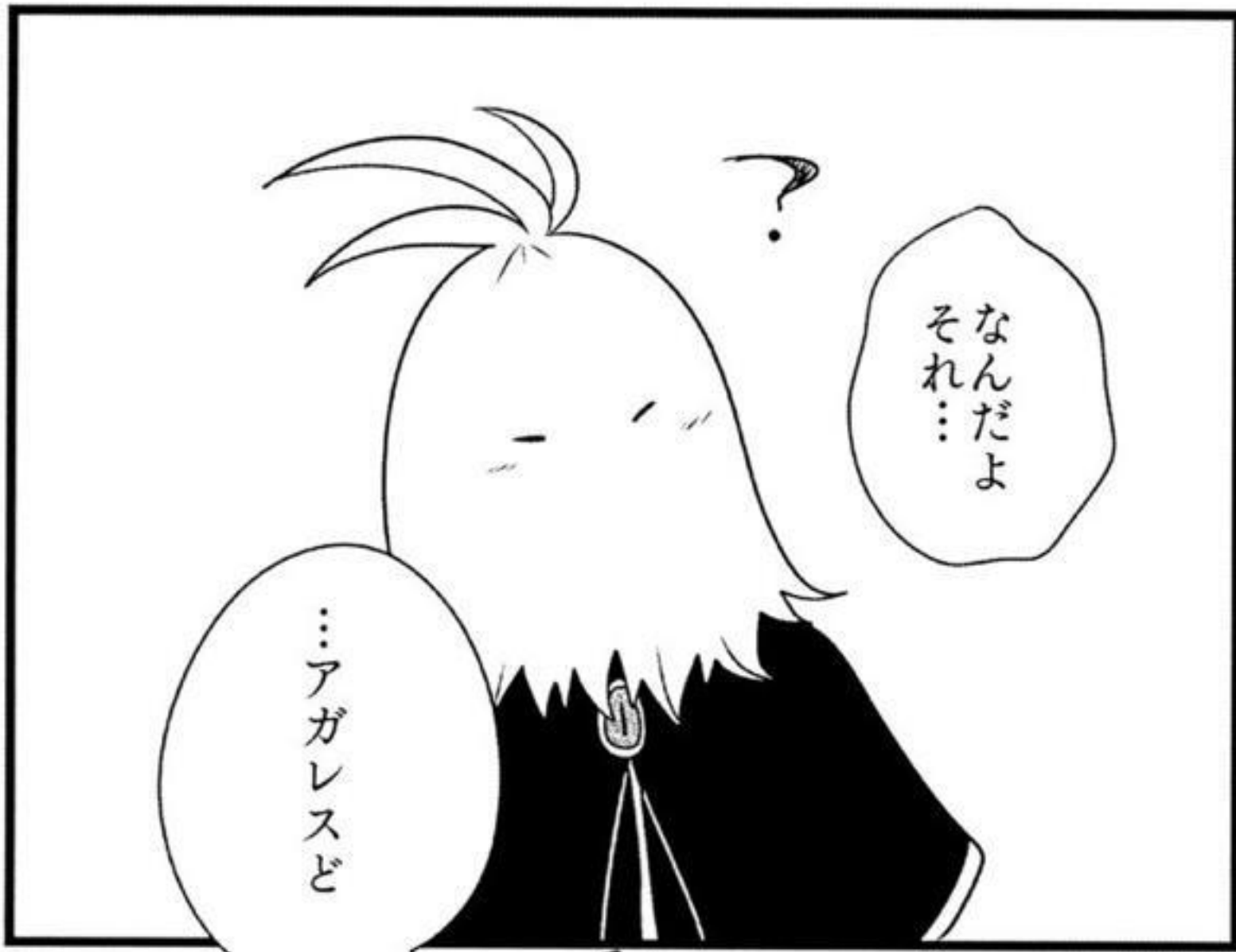


でも…
困ったで
ござるな…



だって…

きゅっ…



皆が望むなら♡

by kataru



完

ゲスト紹介・御礼

novel

マンガ読んでないのに書いてくれて
本当にありがとうvびっくりするくらい
うまくなって感動したわ!(続き読みたい)
またゲスト募集するとき、誘いたいくらいなので
都合よければよろしくお願いします!!笑
逆に私もまた手伝わせてもらおうね^^

課外授業 / ゆの

Twitter @yu_no0i

pixiv -

メインジャンル -



ゲスト参加してくださり
誠にありがとうございました!
ほのぼのかわいいがプアがで癒されます!!!!
本当に最初から最後まで適切な対応でしたが
仏のように聞いて許してくださり感謝です。
いつか機会が訪れたら是非会ってお喋りさせ
てください!!

特別な想い / 榴乃(るの)

Twitter @choco_runo

pixiv ID= 1881446

メインジャンル 文豪とアルケミスト



逆カプなのに描いてくれてありがとう!
というか話を聞いてくれるだけでも
有難かったのに、魔入間読んで描くまで
なってくれるなんて予想しなかった(笑)
同人以外もいろいろ話せていつも
ストレス発散させてもらってます。
今後も末永くよろしくねv

皆が望むなら / Katary

Twitter @xKjmqA8auVrogDV

pixiv ID= 49567903

メインジャンル 落乱 (pixiv ID=10084076)





ん?

なんでこいつ
一緒に
寝てるんだ?



あ、

そうだ
思い出した
俺
こらっふ……



うろ覚えだけど
すごかった気が……

と、いつか
こいつ若干
性格変わってたよな

おいッ

ガーブ
起きろ!

ん
…アガレス殿あ?

服着たいから
放せ



う
う
い…今から
もう一回
しても…?

し

しねよ!!!
放せ





またお前は
好き勝手
しやがって
っは！

同意の上
で/キ/ム

人聞きの悪い！
アガレス殿だって
止めなかったでは
ござらぬか



止めるの
阻止してただろ
わかってんだよ



お前のその姿
前にも見たな



土下座

申し訳なかった
でござるツ!!!

アガレス殿様
ごめんなさい!!!





お前さ...

今でもサバトに誘われたら行く？



なあ
ガーブ

なんで
サバトに誘われるか？

ヤバイ

ヤバイ



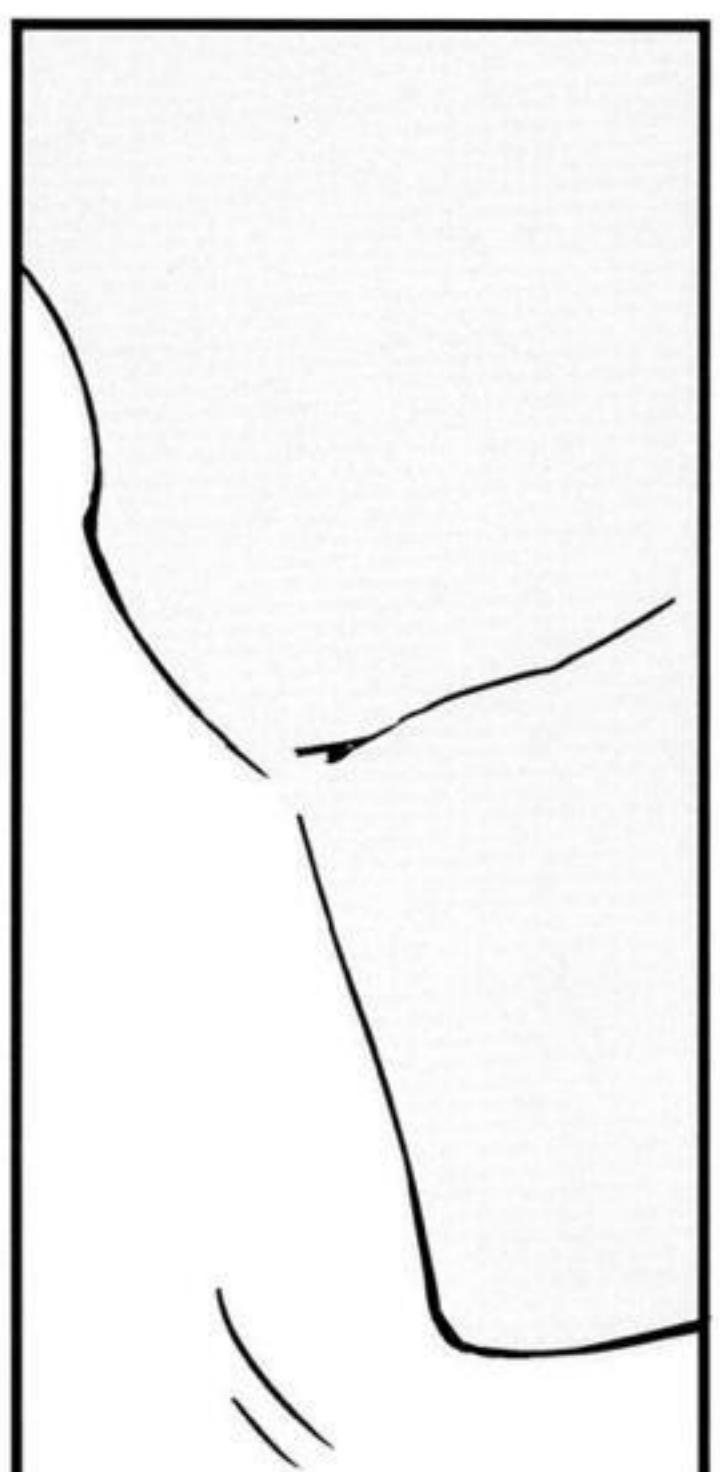
?

拙者にはもうアガレス殿がいるのに行くわけ無いでござろう？



ところで
拙者の刀
どこか知らないで
マヤるか？

見つからない



まあ

じゃあ
俺は寝るから

アガレス殿お!!!
待って!
助けて!!


また
気が向いたら
次も考えてやるか…

『君が望むなら』
イチカ/gpagR18

Twitter @gpagR18
pixiv ID=1974026
mail makotoxichika@gmail.com

発行 2020年8月
印刷 プリントオン
(わくわくドキドキセット)

To be continued . . . ?



そんなこんなで読んでくださり
誠にありがとうございました。

魔入間は去年ブックライブの
無料お試しから読み始めてハマリ
そこからテンション上がって
イベント申し込みをして、
約数か月間、ゆっくりと原稿作成して
完成できました。
なので絵や描き方や編集が
ページを追うごとに変わっているんですが
まあそれも味ということでは…

正直今は魔入間熱も落ち着いて
別ジャンルを描きたい欲が
強いのですが

でもこのページ背景の通り
この同人誌の続きは
もう練っていますので
もしかしたら

続きがあるかもしれないし…

無いかもしれない…

でもわからない…

そんな感じで今後ものんびりと
活動していきたいと思います。
もし続きがあればまた
よろしく願い致します。

この同人誌の作成でいろいろ学べた気がします。
別に会ったことも教えられたことも無いのに
魔入間作者の西先生には勝手に
感謝じっぱなしでした(笑)
今後も魔入間を楽しみながら応援しています。

イチカ